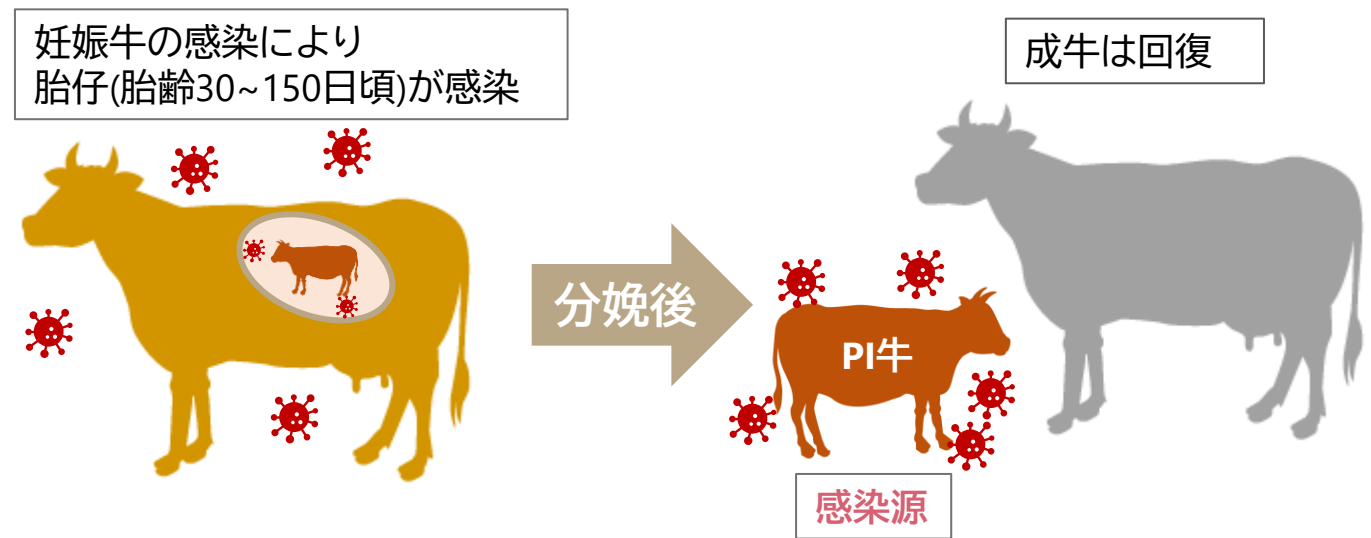


管内の乳用牛農場で牛ウイルス性下痢ウイルス 持続感染牛を確認！

◆牛ウイルス性下痢とは

- 牛ウイルス性下痢(BVD)ウイルスによる感染症で、多くは回復するが、呼吸器症状、下痢、繁殖障害、時には致死性の粘膜病を引き起こす。
- 妊娠牛が感染すると胎盤から胎仔に感染し、感染の時期により死産や流産、異常産が発生したり、生涯BVDウイルスを排出する持続感染牛(PI牛)が生まれる場合がある。
- PI牛はBVDウイルスを牛群内に広め、生産性を著しく低下させる。



◆予防対策

- ワクチン接種※生ワクチン株でもPI牛が生まれるので種付け前や妊娠母牛には不活化ワクチンを接種
- 導入牛の隔離と観察
- 農場内ウイルスの監視とPI牛の早期摘発淘汰

本病を疑う症状が確認された場合は、当所に連絡願います。